

1985・9

第 16 号

しろこぼと

日本野鳥の会埼玉県支部



シギ・チドリ類の観察で秋の訪れにふれよう

北国で繁殖を終えた、シギ・チドリが、県内各地の、川の干潟、水田、河原などで翼を休めています。そこで、今号では、シギ・チドリについて、その特徴などと、どこへ行けば観察できるのか——を中心に、特集を組んでみました。少し、時期遅れかな、とも思いましたが、これを参考に、シギ・チドリを少しでも観察できれば幸いです。

大旅行家(?)として知られる、シギ・チドリは、一年の間に、南半球と北半球の間、数千キロを往復飛行するわけです。つまり、オーストラリア、東南アジア方面で越冬をし、北部シベリア、アラスカ方面へ繁殖のために、出かけていくわけです。

日本に立寄るのは、北へ向う4～5月と、南へ帰る7～10月の2回です。干潟や河原などに立寄るシギ・チドリたちは、カニ・ゴカイ・貝・水生昆虫などを食べ、エネルギーを貯え、翼を休めていくのです。

シギ・チドリ類は、種類も多く、似たもの同士が沢山いるため、識別が難しいとされ、敬遠される人が多いようです。が、観察するには、非常に面白い鳥です。

識別するときの主なポイントは

1 大きさ

小はスズメ大のトウネンから、大はカラスより少し大きいダイシャクシギまで、さまざまです。

2 くちばし

シギ・チドリ類の外見上のいちばんの特徴は、さまざまな形と長さの、くちばしにあります。(下図参照)

3 色彩

夏羽と冬羽とでは、著しく違うものが多いので、注意を要する。夏羽では、赤褐色味を

帯びるものが多い。冬羽では、一様に上面灰褐色、下面灰色のものが多い。

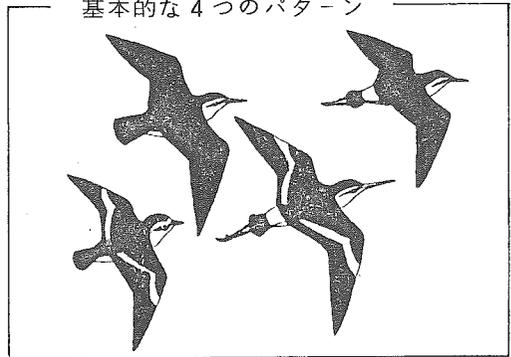
4 足の長さや色

足の長さは、飛んだときに、尾をこえてどうかを見ること。足の色は、赤、青、黄、黒とさまざまですが、野外では、なかなか見分けにくい。

5 飛翔時のパターン

地上にいるときには、なかなか見分けにくい鳥も、飛翔時に著しく特徴の出るものが多い。シギ・チドリ類を識別する上で、これは大変、役に立つことが多い。

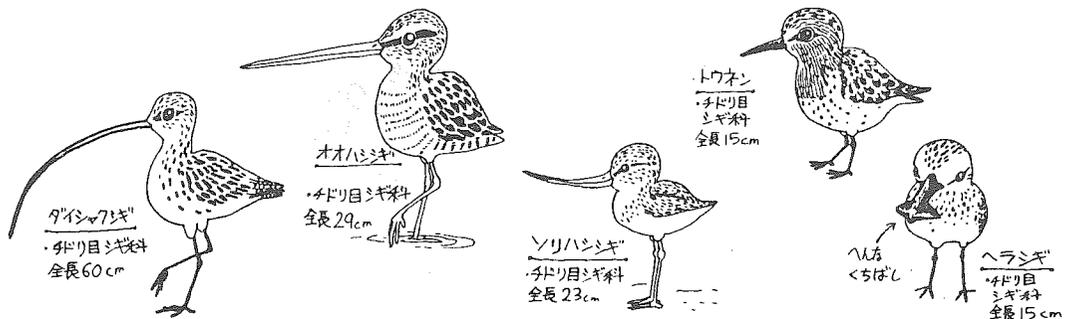
基本的な4つのパターン



『野鳥識別ハンドブック』(高野伸二著)から

6 その他

- 種別により、いる場所が違う。
 - エサのとり方が違う。
 - 鳴き声に特徴のあるものが多い。
- などです。



シギ・チドリの飛来する主な
探鳥地は

1 阪東大橋（本庄市）

利根川の広い河原の浅瀬と中州には、シロチドリとハマシギのそれぞれ、群れが見られます。他には、クサシギ、ムナグロ、キアシシギ、ウズラシギ、トウネンなど。

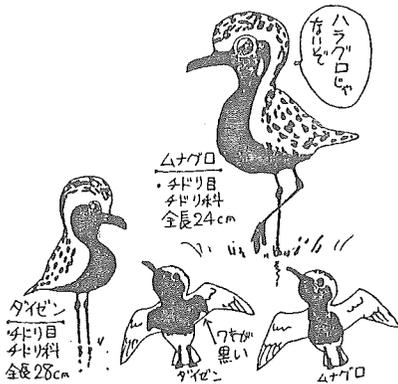
交通＝高崎線・本庄駅下車、北口から東武か群馬バスで、阪東大橋南詰下車。

※9月15日に探鳥会があります。

2 秋ヶ瀬・大久保田んぼ（浦和市）

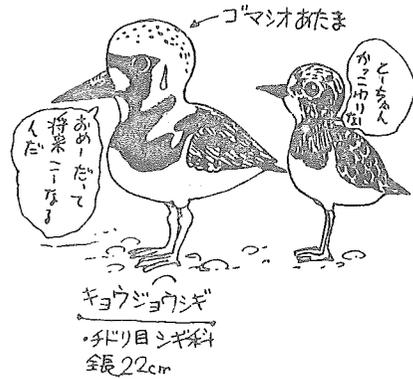
稲の刈り取られた田んぼには、500羽以上のムナグロが見られます。他には、キアシシギ、タンギ、タマシギなど。

※9月15日、シギ・チのカウント探鳥会。



3 渡良瀬遊水池

栃木・群馬・埼玉の3県にまたがり、33ヘクタールにおよぶ、広大な草原の中の沼や湿地に川が何本も走り、多くのシギ・チドリが毎年、記録されています。秋には、オグロシギ、アオアシシギ、コアオアシシギ、エリマキシギなど、内陸性のシギを中心に、十分観



察できます。

交通＝東武日光線・柳生駅下車、徒歩10分。

※9月14日（土）、10月10日（祭）に探鳥会。

4 谷津干潟（千葉県）

県内では見られない、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、オオソリハシギ、ダイゼンが必ず、観察できます。会員の皆さん、ぜひいちど、行ってみてください。

交通＝総武線・津田沼駅下車、京成バス・秋津団地行きで、津田沼高校前下車、徒歩5分。

※9月22日（日）に探鳥会。

5 その他

- ① 熊谷市大麻生＝荒川、押切橋付近（アオアシシギ、イカルチドリなど）
- ② 大宮市深作田んぼ調整池（アオアシシギ、ツルシギ、クサシギ、タンギなど）
- ③ 大井野鳥公園（ソリハシギ、メダイチドリ、セイタカシギなど）

（カット・比企 裕）

キジ（キジ科）

この鳥とつきあって、随分になる。メスを4～5羽連れてくるもの、メスを2羽ぐらいしか連れてこないもの、1羽のメスも連れず溢れオスばかり独身を楽しんでいるのか寂し

がっているのか、小生にはわからないが、オス（表紙写真）ばかりの集団。一見きれいだ（世界中、狩猟鳥で国鳥は、この鳥のみである）、草花や、木々の間に入れば、この美しい鳥がまた、見事に保護色となるのです。

（表紙の写真と文・中村重勝）

野幌公園の野鳥たち——今夏の思い出紀行

場谷内 ルミ子(北本市)

ホオジロのさえずりを聞きながら、風に向かって坂道を1、2、……自転車のペダルを踏む。あ～、きつい。目的地・野幌森林公園大沢口に到着。

「バードウォッチングですか？」と、公園を見回っているおじさんが話しかけてくる。案内板を見ながら、コースを聞いたりしていると、バサッと何やら枝に止まる。なんと、アカシウビンだ！くちばしも体も足もオレンジ色。図鑑よりお腹のオレンジが薄い。目がキョトンとして可愛い。それにしても、くちばしが重そう。アッ、飛んで行ってしまった。残念、腰のルリ色は見えなかった。

妹一家の転勤先へ、可愛い甥に逢いたくて、北海道の鳥と対面したくて、ひとりでやってきました。なにしろいつもは、ベテランのリーダーに「〇〇が入りましたよー」と、声をかけられ、望遠鏡をのぞき、「ウワァ、きれいだー」と眺めていた私。さて、ひとりでどうなることやら、と思っていた矢先のアカシウビンの出現。ハリキって、さあ行こう、と原生林の面影が残る林の中へ。声はすれども姿は見えず、双眼鏡でのぞいても、木の葉ばかり、声で、何の鳥かわかれば、もっともっと鳥に会えるのに、だんだん心細く、望遠鏡も肩にズシリと重い。それに、午前10時だというのに肌寒い。トレーナーを着込む。ああ～、やっぱりひとりは大変だ！

うわあ、きれいな声、今まで聞いたこともない、スバラシイ鳴き声が、今きた方から聞こえる。声の主は何者？姿が見つからない。キョロキョロするとなんと、高い枯木のとっぺんに何やらいる。望遠鏡でのぞくと、写真で見たことのあるクログミ。しきりに鳴いている。えーと、脇のオレンジがないなあ。でも、体全体が茶だなあ。♂ or ♀どちらかしら？首が痛くなるほど図鑑と見比べる。本物の方が、くちばしも脚もオレンジに近い。どうやら、鳴き合っているみたいだ。でも、相棒の姿は見当らない。何処にいるんだあ？わ

からない。仕方なく、先に進むと、目の前をサッと飛んで来た。1mぐらいの近さだ。ああ、間違いなくこれがクログミの♂。黒と白のコントラストがきれい。すると前のは♀。おや、♂が♀を追っかけている。枝から枝へ、また地上へと、めまぐるしく行きつ戻りつして去ってしまった。

カラスにしては、ちょっと違う鳴き声。いたいた。ミヤマカケスが7～8羽、騒がしく鳴き合いながら、行ってしまった。

エゾ松の人工林、毎度おなじみのヒヨドリの声。あれ、ヤマゲラの♀。お腹が薄いグリーン。他の鳥より1オクターブ高い声を残し去って行った。少し下り坂を行くと、道をはさんで両側の梢が騒がしい。コゲラ、アカゲラ、ゴジュウカラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ハシブトガラ、コガラの一団、どこを見ているのか……。望遠鏡の中にはゴジュウカラ、ヤマガラの親子づれ。あっ、動いてしまった。まさしく、森の中のオーケストラ。色々な鳴き声を聞かせて消えてしまった。でも、アカゲラの逆八の字の白と、幼鳥の黒と赤のゴマ塩頭。ゴジュウカラの幹を逆さに降りる曲芸と、十分楽しませてくれた。

午後2時、暑くなる。日ざしが強い。近くでブルドーザーの音。ここは、今売り出し中の造成地が間近に迫っているところ。この公園の周りは、住宅地に変りつつある。山に沿って、お菓子の様な可愛い家が建っている。

大沢園地を過ぎると、切り株の上、何やら動いている。オオアカゲラだ！頭は赤く、背は白い横じま。脇には、黒い線がなんとなくポヤーとしていて、うす汚れた感じ。しきりにつついているくちばしも、アカゲラより太く、体も大きい様だ。たっぷり観察させていただく。ドサーッという感じで枝に移り去って行ってしまった。

そろそろ大沢口、出発点へもどってきた。ホオジロに似ている声の主は、アオジの♂。お腹の黄色がきれい。イカルの声もする。黒

いペレーをかぶり、キビキビと動き回っている。そろそろ帰ろうかなあ。と周りを見渡すと、緑の林の中にオレンジ色が美しい。望遠

鏡の向こうから、つぶらな目で見ている。ああー、また、また、アカシウビンにお会いした！

(財)日本野鳥の会会員制度改正案に役員会が賛同

——ご意見をお寄せください——

8月の役員会では、「同改正案の基本的方向に賛同」との総意が表明されました。主な理由としては、「わが支部の事務が軽減されて、その代償として、これまで以上の活動が期待できるのであれば……」でした。

ただ今回の同改正案は、10年間の懸案ではあったが、県支部の今後のあり方にもかかわる、重要な問題でもあるとの判断がなされました。そこで今号には、意見を述べていただ

くハガキと、別紙文面とを同封して、全会員の意見を受けることになりました。

ハガキには、同改正案に対し、賛否を問わず、意見などをご自由に述べてください。

なお、同改正案について、疑問点も含めて詳しいことは、事務局か、お近くの役員へお問合せください。もちろん、同封のハガキに書かれても結構です。可能な限り、お応えします。

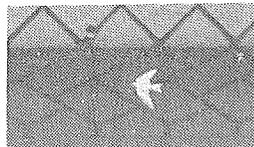
野鳥情報

- ヨシゴイ ◇5月26日から、浦和市秋ヶ瀬で継続観察、2羽。(松田 喬) ◇6月22日から、桶川市江川で継続観察、2羽。(長野博行) ◇7月6日午後4時、富士見市柳瀬川で複数。(増山章弘) ◇7月24日、川越市伊佐沼で5羽。(草間和子他2名)
- コヨシキリ ◇6月12日～7月3日、浦和市秋ヶ瀬で3羽。(松田 喬) ◇7月6日午後4時、富士見市柳瀬川で1羽。(増山章弘)
- アオバト ◇6月17日、秩父市田村で。(浅香 仁)
- フクロウ ◇6月17日夜半、秩父市田村で鳴き声。(浅香 仁)
- コムクドリ ◇7月4日、秩父市羊山公園で♂♀各1。(宮崎章次、長寿クラブ探鳥会) ◇7月12日、北本市北本のケヤキに1羽。(田中智恵子)
- オオジシギ ◇7月7日午後3時、所沢市米軍基地内を鳴きながら飛ぶ。(広野裕子)
- ツバメ ◇7月10日午前9時20分、浦和市白幡沼で1羽が、背中の一部不定形に白化。(海老原美夫) ◇7月10日午後4時30分、

坂戸市関間で1羽が、全身白化。(小鷹布美子) ◇7月13日、

同所で、同個体(=右写真)を撮影。

(篠原好作)



◇7月初旬から、富士見市柳瀬川をめぐらに。8月初旬、千単位で。(藤原寛治)

ジュウイチ ◇7月10日、荒川村国有林で鳴き声。同日、ヨタカ、トラツグミ、ホトトギス、オオルリも鳴き声。(宮崎章次)

アオバズク ◇7月10日、荒川村国有林で鳴き声。(宮崎章次) ◇7月15日午後7時30分、大宮市日進町で声と姿。(森本国夫) ◇7月21日午後3時30分、上尾市八枝神社で成鳥2幼鳥3。(山部直喜他3名)

アマサギ ◇7月17日午後2時20分、江南村の田んぼで20+。(飯野辰男)

サンコウチョウ ◇7月17日午後2時50分、江南村の松林で♂1。(飯野辰男)

クサンギ ◇7月21日午前8時、浦和市三室の芝川で2羽。(中島郁夫)

イワツバメ ◇7月22日午後6時、浦和市白幡沼で20弱。(海老原美夫)





野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意く
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以
下＝50円

9月8日(日) 秩父浦山溪谷(秩父愛鳥会共
催) 午前10時秩父鉄道浦山口駅前集合
(大宮7:25始発→熊谷8:09秩父鉄道乗
換8:28発→寄居8:57→御花畑9:42→浦
山口9:49着)。午後2時ごろ解散。オオ
ルリ、ミノサザイなど。(担当＝鈴木忠雄、
堀越照雄、今井明巨)

9月14日(土) 渡良瀬遊水池 午前9時東武
日光線柳生駅前集合(浦和8:05→大宮8:
11→栗橋8:41東武線乗換8:52発→柳生
9:02着)。午後2時ごろ解散。シギ・チ
ドリ類とタカの仲間。(担当＝中島康夫、
松井昭吾、長野博行)

9月15日(日) 浦和三室地区(浦和市長郷
土博物館共催) 午前8時15分北浦和駅
東口(熊谷7:19発→大宮8:02→京浜東
北線乗換)または午前9時郷土博物館前に
集合。午後1時ごろ解散。タカブシギ、タ
シギ、コムドリなど。(担当＝楠見邦博、
森本国夫、福井恒人) ※参加費無料。

9月15日(日) 本庄阪東大橋南詰(群馬県支
部合同) 午前9時高崎線本庄駅北口集合
(浦和7:38→大宮7:44→熊谷8:27→
本庄9:00着)。午後2時ごろ解散。シロ
チドリ、クサシギ、ショウドウツバメ、ノ
ビタキなど。(担当＝田村照治、石井生高、
小淵健二)

9月16日(月・振休) 浦和秋ヶ瀬地区 午前
9時北浦和駅西口集合。午後1時ごろ解散。
シギ・チドリ類のカウント探鳥会。ムナグ
ロ、キアシシギなど。(担当＝海老原美夫、
西城戸司)

9月22日(日) 谷津干潟(千葉県支部合同)
午前8時15分武蔵野線南浦和駅西船橋方面
行ホーム中央付近集合(8:26発西船橋行
乗車→9:13西船橋着-総武線乗換→津田
沼着)。秋津・香澄団地行バスで津田沼

高校前下車。午後2時ごろ解散。キョウジ
シギ、ソリハシシギ、ダイシャクシギな
ど。(担当＝海老原美夫、中島康夫)

9月23日(月・振休) 伊奈小室無線山 午前
9時ニューシャトル志久駅前集合(大宮8:
30発)。午後1時ごろ解散。サシバの集
結地。(担当＝長野博行、楠見邦博)

9月29日(日) 寄居鐘撞堂山 午前9時寄居
駅北口集合(9月8日の浦山口行と同じ運
行で8:57着)。午後2時ごろ解散。サシ
バの渡り、ハチクマなど。(担当＝田村照
治、石井生高、新井清子)

10月8日(火)夜～10日(木・祭日) 愛知県
伊良湖岬と汐川探鳥ツアー 参加資格＝
支部会員のみ。集合＝熊谷駅前と池袋駅前。
費用＝20,000円(高校生以下19,000円)。
募集人員＝20人(中学生以下保護者同伴)
ですが、最低15人。サシバの渡りで有名な
バードウォッチャーあこがれの地。受付は
9月15日までですが、お早めに、往復ハ
ガキで石井生高(〒

電話)へ、お申
込みください。詳しいテキストなどをお送
りします。

10月10日(木・祭日) 渡良瀬遊水池(栃木
県支部合同) 集合など、9月14日と同じ
です。渡ってきたカモたちと、ミサゴ、チ
ュウビ。

10月13日(日) 大麻生地区 午前9時30分
大麻生駅前集合。ヒドリガモ、ノビタキ。

10月20日(日) 浦和三室地区 9月15日と
同じです。チョウゲンボウ、ユリカモメ。

10月27日(日) 平林寺境内 午前9時志木
駅北口集合。イカル、コガラ、アオガラ、ヒガラ。

10月28日(月) 大井野鳥公園 午前9時品
川駅港南口集合。アオサギ、オオソリハシ
シギ、オカヨシガモ、セグロカモメ。

探鳥会報告

7月14日(日) 寄居町 鉢形城跡と荒川

△ 38人 天気 晴 鳥 ゴイサギ ササゴイ コサギ コジュケイ イカルチドリ イソシギ キジバト ヤマセミ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(24種)水遊びの人出多く、お目当てのカワセミには振られ、ヤマセミがちらり。でもササゴイはしっかりと。目の下の隈どりは「わあ、すてき」。梅雨明け前のひどく暑い日だった。

7月21日(日) 浦和市 三室地区

△ 53人 天気 曇 鳥 カイツブリ コサギ カルガモ コジュケイ キジ クサシギ イソシギ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(26種)早くも渡ってきたクサシギが見られた。一か月前には小さかったカルガモの子がもう親と同じ位の大きさに。

7月28日(日) 熊谷市 大麻生

△ 27人 天気 晴 鳥 ゴイサギ カルガモ トビ イカルチドリ キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ムクドリ SP セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(24種)猛暑の中の探鳥会。鳥たちも口をあけてハハハ。今月から姿を現わしたコムクドリを見る。カワセミの連続出現記録を更新中。

8月11日(日) 熊谷市 大麻生

△ 26人 天気 曇のち雨 鳥 ササゴイ ダイサギ カルガモ コジュケイ 中型シギ SP イカルチドリ ムナグロ カワセミ キジバト ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ムクドリ ヒヨドリ モズ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(22種) リーダー研修会を兼ねた探鳥会。カワセミの番いが現れて魚取り。でも、途中から降り出した雨が強くなり、みんなズブ濡れ。ほんとうにご苦労さまでした。



研修会も兼ねた大麻生探鳥会の参加者(大麻生駅で)

第2回初級リーダー研修会行わる

8月11日(日)、熊谷の大麻生で探鳥会にあわせて、同研修会が行われた。繁忙の中、わざわざかけつけた今井昌彦支部長のあいさつを受けて出発。いくつかのポイントで、本部指導部・藤本和典主任から、実地にそくした指導を受けたり、受講者たちが実際に、参加者たちに説明を行ったりして進行。11時すぎから雨が降り出したため、全員びしょぬれになり、探鳥会は急いで終了。午後は、会場を変更して、埼玉県栄養専門学校の教室を利

用。午前中の探鳥会についての反省や、受講者たちから捻出された事前準備レポートに基づき、探鳥会の実際面につき、活発な意見が交された。現地では雨に見舞われたが、爽り多い一日だった。

受講者(50音順・敬称略)＝浅田徳次、石井生高、石川敏男、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、小淵健二、草間和子、楠見邦博、田中智恵子、中島康夫、西城戸司、福井恒人、宮川辰八郎(計14名で、群馬県の参加者も)

連絡帳

シラサギ記念博物館でパネル展行わる

さる8月1日～6日の6日間、同博物館で県支部後援の野鳥写真パネル展が行われた。付近の見沼地区で普通に見られるヒヨドリ、コサギなどを中心に、27枚のパネルを展示して、身近な自然を見直すことが訴えられた。夏休み中の子どもたちも多数来館し、開館以来最多を記録したという。同博物館では、今後も、県支部と協力して様々な企画を、積極的に推進したい、と意欲に燃えている。

各部会が活発に始動

7月に発足した部会制度。総務部は別紙同封ハガキの作成、普及部は10月以後の探鳥会やツアーを計画、研究部は基本方針を決定し夏鳥分布調査の集計に着手、編集部と事業部は今までの活動をさらに意欲的に推進——など、それぞれ活発に動きだしました。

埼玉県野鳥生態写真コンテストが発表

本報5月号でも案内した、同コンテストの審査結果が、7月31日発表されました。応募数56点の内、20点が入賞。本支部会員では、為貞貞人さん(浦和市)が「コサギ」の写真で入選(2席)を獲得したのをはじめ、計6名が入賞しました。

日本鳥学会例会を開催

日時 9月28日(土)午後2時～4時

会場 東京大学農学部2号館1階2番(地下鉄千代田線根津駅下車、徒歩5分)

費用 100円

講演 テーマ「日本の化石鳥類」

講師＝小野慶一氏(国立科学博物館)

題字「しらこばと」：日本野鳥の会会長・山下静一 (イラスト風見出し・鷹尾正済)

『しらこばと』

1985年9月号(第16号) 頒価100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦 発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号ブリムローズ岸町107号

電話0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

印刷所 埼新印刷株式会社

役員会の報告

7月28日(熊谷市) ①10月行事予定②会員制度改正案の検討③探鳥会規定とテキスト④各部会の報告⑤シラサギ記念博物館パネル展の案内⑥支部報の編集方針⑦共催行事⑧その他。

会員数は

8月20日現在で、590人です。

事務局日誌

- 7月8日 本部指導委員会へ出席(西城戸)
- 7月11日 秩父愛鳥会宮崎会長来局(自然観察会の打ち合わせ)
- 7月13日 研究部会(浦和)
- 7月14日 普及部打ち合わせ(寄居)
- 7月18日 本部事業委員会へ出席(今井)
- 7月20日 役員会資料作成(総務、研究、事業)
- 7月27日 『しらこばと』発送作業
- 7月30日 パネル展の準備(海老原)
- 8月1日 編集部会(浦和)
- 8月3日 朝日新聞が取材(パネル展)
- 8月6日 本部の総務部、事業部と打ち合わせ(西城戸)

編集後記

先日、渡良瀬遊水池の干潟で、疲れ果て腹ばいになって休んでいる、11羽のアオアシギの幼鳥を観察しました。その後、無事に越冬地までたどりついたか、心配です。

秋は、シギ・チドリ類を観察する絶好のシーズンです。探鳥会も沢山、用意しました。ひとりでも多くの、シギ・チドリ類ファンの増えることを期待いたします。(中島康夫)

(無断転載を禁じます)